



主な内容

阿武川カヌー特設競技場を拠点にする選手が全国で活躍	P2
明治日本の産業革命遺産と萩 構成資産 (1) 萩城下町	P4
懐かしいお店 お好み焼きレストランふくだや 福田誠、雅子(萩市)	P6
夢追人 Patra cafe 中村理恵 (萩市)	P7
三見シーマザーズ 吉村榮子 (萩市)	P8

藩政期から水害に悩まされていた阿武川。昭和42年から工事を開始、昭和50年3月、当時の県営ダムとして日本一の規模の重力アーチ式コンクリートダムが完成しました。写真は、見学者の服装もどこか懐かしい、完成間近の昭和49年夏頃の様子。

完成40年を記念した写真展や特別展(16ページ)なども開催中。改めて、ダム建設にともない移転を余儀なくされた方の協力への感謝の気持ちを、後世に長く継承していきたいものです。

第126号 2015年11月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

移転集落の記憶を忘れずに・・・ 阿武川ダム完成から40年



「明治日本の産業革命遺産」と萩をさらにPR!



7月に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」。この遺産群は、西欧の技術を取り入れた日本の幕末から明治末までの急速な近代化・工業化を証明している8県11市の23資産で構成されており、萩には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾の5つの資産があります。

世界遺産に登録されて、大河ドラマ「花燃ゆ」の放送効果と併せて、萩市を訪れる観光客が増加。特に、萩反射炉や恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡だけでなく、今年の、春以降だけで13万人近い観光客が訪れるなど、新たな観光スポットとなっています。

萩市では、訪れた観光客がもっとと世界遺産を分かりやすく、楽しく学ぶことができる拠点や資産の整備が行われています。

■ここで、まず萩の世界遺産を学ぼう! 「萩・世界遺産ビジターセンター・学び舎(まなびーや)」
シリアル・ノミネーション(複数の連続性のある資産における萩の5つの資産の位置づけや、19

世紀末の世界史の奇跡といわれる日本の近代化の原点・萩を分かりやすく紹介するため、大河ドラマ館(平成28年1月10日まで開館)の一部の展示物や新たな映像・展示等を用いて、平成28年1月末、「萩・世界遺産ビジターセンター・学び舎」が開設します。

旧明倫小学校(1棟・2棟)の整備が終わるまでの間、この施設で、萩の資産を紹介するとともに、萩の魅力等を発信し、引き続き誘客を図り、萩の学ぶ観光を推進します。

■5つの資産でも整備を
恵美須ヶ鼻造船所跡(萩ネットワーク125号参照)は、8月から発掘調査を行い、切組木屋があったとされる場所から、建物の柱穴跡などが発掘され、10月17日には、現地説明会が行われました。

萩反射炉では11月上旬には、現在の階段とは別の遊歩道が完成。また、大板山たたら製鉄遺跡では案内看板の設置等、地元住民で運営する福栄文化遺産活用保存会が中心となって行う、おもてなし活動により、増加する見学者への対応を行います。

引き続き、世界の宝となった萩の資産を確実に将来へ引き継いでいくためにしっかりと保存管理を行うとともに、おもてなしの充実にも努め、観光振興の一助となるような取り組みが行われます。

発掘調査が行われた恵美須ヶ鼻造船所跡



■主要観光施設に無線LANを設置

ニーズが高い海外からの観光客にも対応するため、世界遺産の構成資産や、旧萩藩校明倫館、萩博物館等の主要観光地や道の駅など、市内14カ所に、無料の公衆無線LANを設置、1日最大5時間インターネットを利用できます。

■観光客を萩全体でおもてなし

スマートフォン向けの観光情報サイト「ふらつと案内」の「萩城下町・街歩き」には、新たに370カ所の店舗情報が加わり観光スポットや店舗が約960カ所登録。萩を訪れた観光客をネットからもサポートしています。

引き続き、世界の宝となった萩の資産を確実に将来へ引き継いでいくためにしっかりと保存管理を行うとともに、おもてなしの充実にも努め、観光振興の一助となるような取り組みが行われます。

阿武川で腕を磨いた選手がわかやま国体で大活躍!

川上の阿武川カヌー特設競技場を練習拠点にしている、萩市の選手が、10月1日から4日まで、和歌山県で行われた第70回国民体育大会のカヌー競技で優勝、入賞しました。

足立和也さん(24歳)は、スラロームカヤックシングルの15と25ゲート両部門で優勝。高橋怜也さん(29歳)は、ワイルドウォーターのスプリントで優勝、1500mで準優勝。岡崎遥海さん(萩商工高校2年)は、スラロームカヤックシングルの15ゲート3位、25ゲートで5位と、3人とも大活躍。

3人は、競技に集中するために県外から萩に移住。阿武川を拠点として国内の大会で優勝、入賞す



8月に阿武川カヌー特設競技場で行われたジャパンカップでも優勝した足立選手

■最高の練習場 阿武川カヌー特設競技場

るほか、足立選手は、ワイルドカヌーにも出場するなど、3人とも活躍していましたが、今回、その成果が一気に開花しました。

コースは、2011年の山口国体用に整備。今年で完成40年を迎えた、阿武川ダムの直下であり、水量も一定であるなど、選手の間でも練習環境が整った日本有数のコースと評判でした。現在、3選手のほかに、このコースを拠点に練習に励んでいる選手がいます。

今回、3選手が国体で優勝、入賞したこと、カヌー競技の関係者の間でさらに注目されるのではないのでしょうか。

阿武川で日々練習を重ねている3選手の、今後ますますの飛躍とともに、彼らに続く選手が登場することが期待されます。



10月19日には、野村萩市長に成績を報告[左から]岡崎遥海さん、野村萩市長、高橋怜也さん、足立和也さん

「萩まちじゅう博物館」が アジア都市景観賞を受賞

まち全体を屋根のない博物館に見立てた「萩まちじゅう博物館構想」による萩のまちづくりが、地域を活性化し、他の都市の模範となると評価され、10月27日に「アジア都市景観賞」を受賞しました。

アジア都市景観賞とは

アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目的に、他の都市の模範となる成果を上げた都市などを表彰する国際賞で、国連ハビタット福岡本部などで、団体主催。

今年、萩市のほか、国内では福岡県と新潟県南魚沼市が、海外の8件とともに選ばれました。



着物ウィークin萩(10月1日~12日)

萩まちじゅう博物館構想

2003年に始まった、市内に残る歴史的遺産や文化遺産、自然を現地にありのままに展示し、新たな文化を創造する構想です。萩市のまちづくりの基軸として位置づけ、市民にもそれらの魅力を再認識してもらい、次世代や観光客らに伝える取り組みを行っています。先駆的な取り組みとして、中東のヨルダンにもその手法が取り入れられています。

萩博物館の管理・運営を担う、NPO萩まちじゅう博物館が中心となり、市内の文化遺産の情報を「萩のおたから」として、地元の人たちとともにデータベース化したり、地域ごとのおたからを掲載した地図を作ったりしています。

萩の魅力の後世に

萩のまちは、毛利氏の城下町や明治維新に関する歴史的に価値の高い遺産の中に、脈々と受け継がれている伝統行事や伝統技法、文化などの生活が息づいており、今後も官民が一体となった保全と活用に取り組み、後世に「萩のおたから」が引き継がれていくことが期待されます。

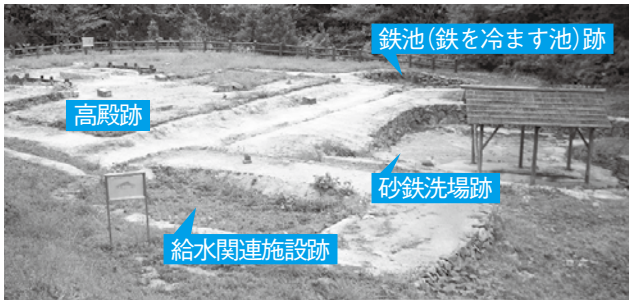
明治日本の 産業革命遺産 萩の5資産

シリーズ3

大板山たたら 製鉄遺跡

産業化を支えた匠の技術

萩市中心部から東方の内陸部、福栄地域の紫福地区にある山の口川最上流部、山の口ダムの先に、大板山たたら製鉄遺跡があります。これは、砂鉄を原料に、木炭を燃焼させて鉄を作っていた江戸時代中期から後期にかけての製鉄遺跡で、建物跡などの遺構が露出した



恵美須ヶ鼻造船所跡で発掘された縫釘(左)と錠



形で整備されています。

大板山たたら製鉄遺跡は、県内最大級のたたら製鉄遺跡であり、18世紀以降、萩藩内で操業されるようになった「石見系たたら」の典型例として、平成24年9月には国の史跡に指定されました。

萩藩最初の洋式軍艦「丙辰丸」の船釘や碇の原料鉄を供給

大板山たたら製鉄遺跡では、宝暦年間(1751~64年のうちの8年間)、文化・文政期(1812~22)、幕末期(1855~明治初め)と、約50年の間隔を開けて3回の操業が行われました。特に幕末期では、1856年(安政3)に萩藩が恵美須ヶ鼻造船所で建造した最初の洋式軍艦

「丙辰丸」を建造する際の、船釘や碇の原料鉄を供給しました。さらに1863年(文久3)からは産鉄すべてが萩藩により買い上げられました。このことは、幕末の西洋式軍艦建造など、萩藩の近代化に、当時の日本の在来技術が利用されたことを示しています。

原料の砂鉄は、伊野村(高根県浜田市)から北前船を利用して、奈古港(阿武町)に荷揚げされ、馬を使って大板山たたらへ搬入されました。恵美須ヶ鼻造船所への鉄の輸送は、同じ道を再び馬で運び出し、奈古港から船で恵美須ヶ鼻造船所へ運ばれたと考えられています(図)。

石見系たたらの特徴とは

中世から江戸初期までのたたら製鉄は、主に野外で臨時的に製鉄が行われる場合が多かったのですが、石見系たたらは、恒久的な製鉄炉を持つ「高殿」という建物を中心にして長期間継続して行われる「永代たたら」でした。これによって生産量、品質が格段に進歩しました。一方、このたたら製鉄では大量の燃料を必要とするため、豊かな森林を持つ萩藩領に展開したと思われまます。

大板山たたら製鉄遺跡は、発掘調査によって高殿などの生産遺構が良好に残っており、日本近世の製鉄業の展開を理解するうえでも貴重な遺跡といえます。

明治日本の産業革命遺産と萩

構成資産の紹介(1)萩城下町

道迫真吾(萩博物館主任学芸員)

構成資産としての価値

世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」は、23件もの資産を組み合わせたものであるため、複雑で難解であるとのイメージをもたれる方が多い。そこで今回から、萩市の5資産がどのような評価を受けているのか、どのようなストーリーをもっているのかなどを、個別に紹介することにした。まず手始めに、萩城下町から見てゆこう。



とにより工業化に取り組んだ文化的素地を示す、唯一の事例である。萩城下町は、日本の工業化の過程で、幕藩領主が先駆的に試行錯誤を重ねた幕末当時の社会的背景を物語る資産と位置づけられている。

なお、特に城下町としての姿を色濃く残しているのが、城跡(指月山を含む)、旧上級武家地(外堀と堀内地区)、旧町人地であるため、この3つのエリアを構成資産「萩城下町」としている。

萩城下町の建設と発展

長州藩(萩藩)は毛利氏が支配した全国有数の大藩で、萩には城郭とともに城下町が建設された。萩城下町は、長州藩の政治・経済文化・軍事の拠点であり、日本が工業国家へと転じる以前の厳然とした封建社会の様相を色濃く現代に留めている。

萩城下町は、毛利輝元が開いた計画都市である。輝元は、慶長九年(1604)、萩城の建設に着工すると同時に城下町の建設にも取りかかった。

萩城は慶長13年(1608)に

完成した。萩三角州北西に聳える指月山の麓に、5層の天守を擁する本丸以下、二ノ丸・三ノ丸を置き、指月山頂には要害(詰丸)を設けていた。萩城には約260年間、長州藩の政庁が置かれた。

武家地については、慶長10年(1605)以降、家臣の屋敷地がそれぞれの身分に応じて配分されていった。主に上級武士は萩城三ノ丸内に居住したが、それ以外の中・下級武士の多くは、平安寺・江向・土原・川島地区などに居住した。

町人地については、主に山口から町人が呼び寄せられ、これら草分け的な町人たちが各町をとりしきった。18世紀初頭までに町人地は28町に固定され、瓦町に置かれた御客屋において執務する萩町奉行の管轄下に置かれた。ただし例外として、萩城下町の外港の機能を有した浜崎町・浜崎新町の2町は浜崎宰判に属し、浜崎代官の管轄下に置かれた。

伝統的な技術を担う職人は、城下町の内部あるいは周囲に居住し、それぞれの生業を営んだ。それら



諸職人層は細工人と総称され、鋳物師、焼物師、鉄砲細工、刀鍛冶、大舟大工などが存在した。これら細工人が有した伝統的な技術は、近代的技術を移入するうえで大いに役立てられた。

萩城下町は、長州藩の教育の拠点でもあった。藩校明倫館は、享保4年(1719)という全国的にも早い段階での創設で、当初は萩城三ノ丸内に置かれた。しかし、国内外の情勢変化に対応するため、嘉永2年(1849)城下町の中央部に移転拡充された。文武両道に秀でた有能な藩士を育成するための教育機関として、全国屈指の規模を誇った。

長州藩領には、武士のみならず農民や町人にも門戸を開いた、寺子屋や私塾が多数存在した。明治前期の統計資料によると、旧長州藩領の山口県においては、寺子屋

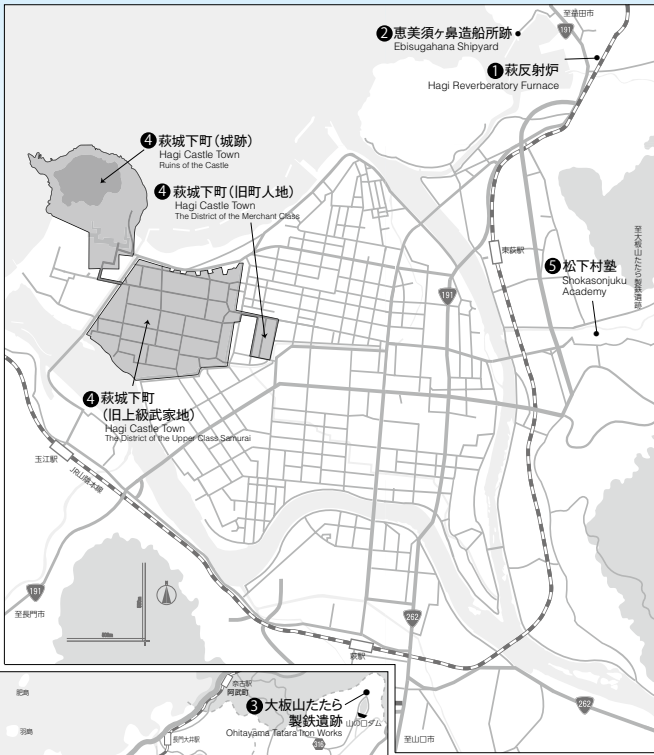
は全国で2番目に多い1304校、私塾は全国で4番目に多い106校の存在が確認されている。寺子屋と私塾を合わせた1410校は、長野県の1466校(寺子屋1341校、私塾125校)に次いで全国で2番目の多さである。藩都である萩城下町には、その多くが集中していた。

萩城下町は、文久3年(1863)に藩の政庁が山口に移されるまで、約260年間繁栄した。明治4年(1871)廃藩置県により、山口県の県庁は山口に置かれた。以来、萩は天災・人災も少なく、大規模な開発からも免れたことにより、旧城下町の姿が現代に良好に伝わったのである。

近代化への試行錯誤の舞台

長州藩は、薩摩藩や佐賀藩とともに西南雄藩と称され、明治維新及び日本近代化の原動力となった。これらの藩が鎖国という条件のもと自力で近代化を進めることは試行錯誤の連続であり、その過程で日本の工業化の基礎が準備されたことは特筆に値する。

19世紀半ば、イギリス、フランス、アメリカなど欧米列強が東アジアへの進出を本格化した。これを脅威に感じた日本の支配者層である幕藩領主は、海防(海岸防備)の強化を模索し始める。とりわけ、天保13年(1842)にア



ヘン戦争で清（中国）がイギリスに敗れると、幕藩領主はもはや対岸の火事では済まされないと危機感を募らせた。なかでも長州藩は、三方が海に開かれ、かつ中国大陸に近いという地理的要因が重なることから、海防強化に必要な軍備、具体的には大砲や軍艦の洋式化に積極的に取り組んだ。長州藩は、城下町周辺で在来の知識・技術を動員し、自力で軍備の近代化に挑戦するのである。

もともと日本では、18世紀半ば以降に、医学を中心とする西洋の知識がオランダ経由で入って蘭学が盛んになり、蘭方医学が発達していた。ところが、19世紀半ばに至ると軍事的な危機が高まったため、蘭学の担い手、すなわち蘭学者が、医者やオランダ通詞などから武士へと拡大されていった。つまりアヘン戦争情報の流入によって、蘭学に軍事科学の側面が加わり、性質が変化したのである。さらに蘭学は、オランダ以外の西洋の言語が流入してくると、洋学として一層発展していった。

幕藩領主は、アヘン戦争情報によって、戦（軍事）という武士の本来に目覚めた。彼らは、旧来の伝統的な和式大砲では欧米列強にとうてい勝ち目がないことを敏感に察知し、大砲や軍艦など軍備の洋式化を急いだ。つまり、現在から見れば大変不幸なことではあるが、日本は、軍事技術関連の分野から工業化を開始したのである。

萩は、幕末の日本では、長州藩以外にも佐賀藩や薩摩藩など有力な諸藩が工業化に取り組んだ。この両藩の工業化への努力が長州藩のそれを凌駕するものであったことは、よく知られた事実である。ところが、現在では佐賀市にも鹿児島市にも、都市開発その他の影響で城下町の様子が残存していない。西南雄藩に数えられる佐賀・薩摩・長州の3藩が自力で工業化に取り組んだと一口にいつて

も、幕末の地域社会の姿を濃厚に現代に伝えているのは、萩市だけである。要するに萩城下町は、工業化の試行錯誤を重ねた城下町の典型として資産に加えられているのである。

なお、明治政府が中央集権的な統一国家を建設する過程で、廃藩置県や徴兵令などにより、全国の不平等士族が不穏な動きをする中、明治政府は明治6年（1873）、一部を除く全国の城郭の解体などを指示。その意向を受けて、萩城下町のシンボルであった萩城は明治7年（1874）に解体された。石垣を残すだけとなった現在の萩城跡は、封建社会から近代社会への移り変わりを視覚的に表すものとなっている。

萩市は「明治日本の産業革命遺産」を構成する自治体の中で、現代においても唯一城下町の様子を色濃く残している都市として高い評価を受けている。

図録「明治日本の産業革命遺産と萩」

11月29日まで、萩博物館で開催中の、世界遺産登録記念企画展「明治日本の産業革命遺産と萩」の図録。萩の資産の位置づけとともに、幕末の萩（長州）藩が取り組んだ工業化の試行錯誤の段階から明治政府による工業化の実現へと至る一連の軌跡を明らかにしています。また、5つの資産の詳しい紹介も掲載。

▽B5版、80ページ

▽図版（39ページ）、全23構成資産の解説、資料「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録に

至る記録、各論 萩の資産の歴史の経緯と価値

▽価格 1000円（税込）

▽販売所 萩博物館（配送可）

問い合わせ 萩博物館 (0838・25・6447)



旧上級武家地



お好み焼きレストラン
ふくだや



店の内観



店の外観

店主 福田 誠まことさん (55歳)
雅子あこさん (53歳)

現在78歳になった母は店に出ていませんが、その味は誠さんが受け継いでいます。お盆には、この懐かしの味を求めて多くの帰省客が訪れ、普段は1回で数日分のマヨネーズを作るところ、毎日のように作らなければ間に合わないほどの忙しさ。家族で来ていたとか、学生時代に友達や恋人と来ていたなど、店での思い出を語る客も多いそうです。

母の味を守り続ける

誠さんは、萩商業高校卒業後、大学と調理師の専門学校を卒業し、神戸のホテルでフレンチやイタリヤンの修業を重ねました。28歳の時に帰郷後、神戸で出会った雅子さんと結婚。修業時代に培った技術を活かして洋食メニューを充実させ、夫婦で家業を盛り立てました。しかし、次第に景気も悪化し、人口も減少。周囲に安価なファミリールレストランなども増えました。店を改装した15年前からは、1階のみで営業を行っています。

昔はお好み焼きを食べる客で賑わっていた店内も、最近では、同程度の金額であれば定食を好む学生や若者が多いそう。「今の若い人は、ふくだやと言えば、お好み焼きではなく、定食という人が多くいると思う」と2人。中高生限定の500円定食も提供しており、「進学などで萩から出た子が帰省する

と、定食を食べに訪れてくれたり、ふくだやが近くにあっていいのにと言ってくれたりする子もいます」と雅子さん。一方で誠さんは、「やはり、看板メニューはお好み焼き」と話します。若い世代にもっと食べてもらいたいと、チーズやウインナー、餅などをトッピングしたメニューも加えて、試行錯誤を繰り返します。

夫婦の間には3人の子供もいますが、今のところ、後継ぎはいません。客からも「店を無くさないで」と言われますが、「動けるうちは、2人でやればええね」と誠さん。今後、年齢を重ねることを考えると、定食類のメニューを減らすことも検討しますが、「いつも頼むお客さんがいるからダメ」と雅子さんの承諾はなかなか得られません。

「でも、マヨネーズは作り続けるよ。これがなければ、普通のお好み焼き屋になっちゃう。母がこだわったお好み焼きの味とマヨネーズは守っていききたい」と夫婦揃って想いは同じ。これからも母の味を守り続けていきます。

自家製マヨネーズが自慢の「お好み焼きレストランふくだや」。名物のお好み焼きやリーズナブルな定食は、長年、地元大学生から年配の方まで幅広い世代に愛されています。店を切り盛りする4代目店主の福田誠さんと妻の雅子さんにお話を伺いました。

曾祖父から続く「ふくだや」

店内に入ると広がる香ばしいソースの香りが食欲をそそる。厨房で腕を振るうのは店主の誠さん、温かい笑顔で客を迎えるのは妻の雅子さんです。休日には学生アルバイトが入りますが、平日は夫婦で店を切り盛りしています。

ふくだやは、戦前に曾祖父が開いた食堂が始まり。「当時、今の

税務署のところにあつた芝居小屋の見物客が多く訪れ、店も流行っていたようです」と誠さんは話します。

その後、祖父、父へと受け継がれ、主に定食類を提供していましたが、誠さんが小学生だった昭和40年代、「大阪の伯父から、当時、関西でブームとなっていたお好み焼きを勧められた」ことから店で始めたところ人気を呼び、行列ができるほどに。ほどなく、2階をお好み焼き専用、1階は定食類を提供するレストランに改装しました。景気も上り調子の中、コックをはじめとする従業員やパートも多く雇用するほど繁盛しました。

手作りマヨネーズの誕生

その頃、「お好み焼き命。とにかく熱心だった」という誠さんの母が、下関のとある店で手づくりのマヨネーズと出会います。「材料を教えてもらい、自分で熱心に研究を重ねて、今のマヨネーズが出来上がった」と雅子さん。「ふくだやのおばちゃんと言ったら有名。マヨネーズを残したら注意をされていましたね。おばちゃんによく怒られたと言うお客さんも多いです」と笑って話します。

自家製マヨネーズのファンは多く、昔はお好み焼き以外の料理にかけて食べる客や、販売してほしいという人も少なくありませんでした。「クリーミーで、自己主張し過ぎないのが良いのかな」と雅子さんは人気の理由を考えます。

■お好み焼きレストランふくだや
住所：萩市唐樋町26

営業時間：午前11時～午後3時
午後5時30分～8時30分

定休日：火曜日

☎0838・22・1642

中村理恵さん

(萩市在住、36歳)



する本を参考に、休日にランチを兼ねて、姉とカフェ巡りをするようになり。スタイリッシュな店やホッと落ち着くような店など、多種多様な雰囲気のカフェを巡るのは楽しく、店休日ではないはずなのに、到着したらお休みしている店などもあり、その自由な営業スタイルも私にとっては新鮮でした。

都会でしか楽しさを見つけられないと思っていて私が、田舎で「カフェ巡り」という趣味を見つけることができ、次第に、カフェであれば、自分に合ったスタイルで開業することが可能なのではと思うようになります。また、カフェ本

には、萩市内のお店が掲載されていないこともあり、ランチができる自分好みのカフェを萩で開きたいと思うようになりました。29歳の時、開業に向けての勉強のため、カフェ激戦区と言われている福岡へ移り住みます。派遣社員をしながら、休日はさまざまなカフェを見てまわり、メニューや料理の盛り付け、インテリアや席数、厨房の造りなどをチェック。自宅では、レシピ本を参考にメニューを考えたりして、自分なりに研究を重ねました。

33歳の時、再び萩へ帰郷。釜飯屋だった物件を改装し、昨年3月

念願だったカフェをオープンしました。店には、自分の「好き」を詰め込みたいと思っていたことから、北欧アンティークの家具類を使用。テーブルやイス、照明などは、それぞれに形や色が異なる不揃いなものを配置し、その日の気分でする場所を選んでいただけような遊び心も取り入れました。くつろげる場所にしたいという思いもあり、木材はナチュラルな風合いのものを使用。内装工事は、友人のプロや家族にも手伝ってもらい、手作りの温かみのある空間を作ることができました。

長く愛されるカフェに

現在、オープンして1年半が経ちました。人気の週替わり定食は、メイン料理に加えて、野菜たっぷりの副菜を4品提供しています。女性はもちろん、男性お一人でも週末来られる方もいて、リピーターの方が多くですね。

私の料理は、母の影響が大きいく、新メニューは料理上手な母と一緒に作って試食しています。幼い頃から食べ慣れた母の味は舌が覚えていきますし、メニューの相談にのってくれる母は、私にとって師匠であり、尊敬しています。「この料理を作りたい!」と思ったら、時には夜中まで台所に立ち、家族や周囲の人たちに手料理を振る舞うところは、確実に私にも遺伝し

ていて、今に繋がっています。以前、お客様から、お店で提供されている料理なのに、誰か特定の人に作っているような、そんな愛情が注がれているように感じる、と言われたことがあります。私自身、親しみやすい家庭料理の中に、いつもと違ったひと味を提供することを目指していますね。

また、ランチ営業だけでなく、月に一回、美祿市のパン工房による出張販売や、無添加・無農薬のワインを楽しむ「満月会」を開催しているほか、時には、市内外のイベントにも出店しており、今後は、市内の他店舗や異業種の方ともコラボレーションできたらとも思います。

変化し続けることを大切にしながらも、やっと見つけられた自分の居場所である店をしっかりと守り、長く愛されるカフェにしていきたいと思っています。

■パトラカフェ
住所…萩市平安古町603番地3
ランチタイム…11時30分〜15時
カフェタイム…15時〜18時30分
定休日…不定休
☎0838・21・7075



※週替わり定食 800円、グリーンカレー 650円、ガパオ丼 650円

昨年3月、城下町の入り口にオープンした「Patracafe」。白を基調としたオシャレで温かみのあるカフェの野菜たっぷりのランチは、地元客を中心に人気を集めています。オーナーの中村理恵さんにお話を伺いました。

に就職しますが、組織で働くことが自分には合わないように感じ、21歳の時に退職。その後はアルバイト生活をしながら、週に一度は友人と都心へ遊びに行くなどして、都会での生活を満喫していました。しかし、24歳の時、体調を崩したことから、萩へ帰郷しました。

カフェを開きたい!

帰郷後は、市内のホテルに就職しますが、当時の私は、自分がどこで何をしたいのかが見えていませんでした。そんな中、姉が購入してきた県内各地のカフェを紹介

自分の「好き」を詰め込んで



三見シーマザーズ

吉村 榮子 さん

(萩市三見在住、79歳)

県初の漁協女性部法人化

20年前から、地域の高齢者を招いて食事やレクリエーションを提供する「いきいきサロン」を毎月開催していた女性部。そこで、毎日の食事に困るという生の声を聞き、地の食材で弁当を作って配達しようという提案が持ち上がり、平成18年に団体を結成、翌年活動をスタートしました。

が地域を活気づけました。22年春には道の駅に出店し、同年夏には株式化して地域雇用を創出。60歳以上の女性が元気に働く起業モデルとして、全国から注目を集めています。

「使う魚は朝締めのもので、月に2000食を超えるお弁当作りは大変ですが、おいしい魚を使って地域内外の人が喜んでくれることで、私たちも元気になります。平均年齢は69歳。地元では、定年迎えたら、いらつしやいと声をかけているんですよ」と笑う吉村さん。「活動の原点は福祉。お弁当は、小さく刻む介護食も承っていますし、レストランでは車いす利用者の方にも積極的にお越しいただいています。丁寧な出来上がり、やさしい塩梅、それらからも「まごころ」が伝わってきます。



萩の主幹産業の一つである水産業において、生産者の担い手育成や、消費者への魚食普及など、次世代へつなぐ取り組みが大きな課題となっています。そこで注目されるのが、女性の力です。

「第18回全国青年・女性漁業者交流大会」で農林水産大臣賞を受賞した団体、三見シーマザーズ(会員29人)の代表を務め、今年6月の「全国漁協女性部連絡協議会」で会長理事に就任した吉村榮子さんに、活動の原点や今後の展望などを語っていただきました。

「地域が元気に」が合い言葉

山陰道を明石ICから海へ向かって降りると、目がさめるほど美しい青の絶景を見渡す、道の駅「萩・さんさん三見」があります。平成22年春のオープン以降、この評判を上げ続ける魅力の一つが、レストラン「鯖島食堂」です。運営

メンバーは、山口県漁協三見支店女性部から発足した「三見シーマザーズ」を中心とする、浜のお母さんたち。料理には、朝4時から仕入れる良質な地魚を惜しみなく使うことを信条に、魚どころの下関からもファンを呼び、休日には午前11時半に売り切れることも。26年度の総売り上げは5000万円超と右肩上がりの成長ですが、そっくりそのまま原材料費と人件費に充てるため、団体としての利益はないに等しいとか。



三見シーマザーズのみんなで

「私たちの活動は、地域を元気にし、自分も含めた高齢者が元気に働けるように、という思いがすべて」と話す吉村さん。今や高齢化率が48%となり、漁協正会員約50人のうち60歳以上が80%を上回る三見地区。そんな状況を目の当たりにしたことを機に、自らの行動で元気を生み出したのが、三見シーマザーズが歩んできた10年です。

気軽に作ろう！「チャチャッと魚食」

加工・販売のほか、活動の柱として力を入れるのが、魚食の普及です。園児や小中学生、女性グループなどを対象に年30回ほど料理教室を行っています。交流を重ねるたび、魚を食べる機会が減っていると実感したそうです。

就学前の子どもには触ることから親しんでもらい、一緒に食べて魚の話をします。「今日の魚はおいしい、という言葉が本当につれ

しい。現代は働く女性も多く、帰宅後に魚をおろすことから始めるのは大変なため、スーパーに売っているブロック身など、手軽な素材でチャチャッと料理ができることをポイントに、浜のお母さん流の郷土色にこだわってレシピを開発しています。

最後に、今年から全国漁協女性部連絡協議会の会長理事に就任した吉村さんに、決意を伺いました。「魚食はもちろん、萩のPRを自分の言葉でしっかり伝えていきます。萩の海を代表する女性リーダーが、これから2年、全国の浜のお母さん代表として活躍します。

■三見シーマザーズ

住所：萩市三見3333 (山口県漁協三見支店)

☎08388・27・0041 (道の駅萩・さんさん三見)



MESHITOMO FES in萩(10月24日)に参加したメンバー(一番右が大平代表)

ふるさと萩でがんばっています!

萩LOVE

(代表:大平憲二さん)

ページを立ち上げました。まずは、イベントや観光情報を身近な感覚で掲載。地元の方に利用してもらい、さらに市外への発信も期待できるという長所に着目しました。続いて、地場精密機械メーカーの協力で椿油を搾ったり、幼稚園で職人が直に指導する萩焼体験など、メンバーから溢れ出る発案をもとに、地域資源を生かした活性化を実現していききました。



「萩LOVEハイスクール」の授業風景

ゲストが、週2回ほど講師として指導する熱血特別授業です。

今年、高校生の視点で社会や暮らしのなかから問題や課題を見つけ、その解決方法を提案する「全国高等学校デザイン選手権大会」に13チームが応募(全国で1247チーム)し、1チームが決勝進出を決めました。県内初の栄冠と聞き、メンバー全員が頼を緩めています。

これまで、まちを活性化する主役にメンバーが立つことが多かったのですが、「ハイスクール」の取り組みは一つの分岐点となりました。私自身が30歳代から40歳代へ移り変わる時期で、子を持つ親としても、次世代が大人になったときの萩を考えるようになりました。10年後や20年後には、現在ある職業の多数が不要となっていると言われる時代。そのころ社会に出る子どもたちが萩で暮らし、豊かな人生を送る環境があるかどうか、危機感と使命感を持たずにいられませんか。きちんとバトンタッチするため、今後の萩を支える人材育成・誘致の必要性を強く感じ、教育プログラムに取り組んだのが、今年開催した「Life is Tech in萩」。英語とプログラミングが重視されるなか、萩で学ぶ機会が少ないプログラミングに中高生が挑戦するイベントで、熱中した8時間を過ごしてくれました。もし叶うことなら、自分で仕事を作るフロンティア精神のある人材に育ってほしいと期待しています。

活動7年目となった「萩LOVE」ですが、今後は人と人をつなぐ、ご縁や新しい可能性を生み育てる「場」として機能できればと思います。来春には、幕末ファンの女性視点で発案されたイベントを企画中です。

ある時、ホームページをきっかけに国内外で活躍する和太鼓演奏者から、萩でのコンサート希望が届き、浜崎伝建地区で行われる「御船倉コンサート」出演に結びつきました。人生の豊かさは、人との出会いが大きく影響するものです。たくさんのお会いがあるコミュニティは活動ごとに意義を増し、そこで生まれたご縁で「萩LOVE」協力者の輪が広がりました。

不安や娯楽が少ないことへの不満など、後ろ向きな発言が目立ちました。それは一つの郷土愛ではあります。思うだけでなく、行動に移すことが大事だと感じました。そこで、同僚や同級生に声をかけ、萩の20〜30歳代の10人で、平成21年に「萩LOVE」を結成。みんな萩が好きで、「もつと元気で楽しいまちにしたい」、「一人の力じゃ無理なことも、みんなが集まればアイデアや力が生まれるはず!」という熱いメンバーばかり。そんな直球の思いが、団体名にこめられました。

メンパーは、萩焼職人や観光協会職員、幼稚園教諭など多業種で得意分野も広範囲。せつかく思いを持つている人がいてもバラバラなのはもつたない。そこで、誰でもつながることができるコミュニティづくりを目指してホーム

出会い生むコミュニティ

学生時代を県外で過ごした後萩に帰り市職員や労組役員として務めるなかで、市内の人と多く出会う機会がありました。そこで生まれたのが、「外から見た萩」という意識。活性化の課題はどの地方にもあることを社会の一員として改めて気付き、生まれ育った萩に向き合うようになりました。当時、友人や地域の仲間らが集まると、出てくるのは将来の萩への

当時、萩のまちを見て

「萩LOVE」が注目されています。主要メンバーは市内在住30〜40歳代の10人ほどですが、平成21年春の結成以来、行ったイベントなどを通じ、思いを共にする賛同者は数多く、今後の萩を担う世代へ大きな刺激となっています。その精神的な活動について、大平憲二代表にお話を伺いました。

新たに見えた課題 次世代という人材育成

SNSなどウェブ発信が発展するなか、ホームページ充実の一環として、平成23年春から「萩LOVEハイスクール」という取り組みを始めました。萩商工高校情報デザイン科3年の生徒が萩の観光スポットなどを紹介するコンテンツ制作に挑戦し、萩LOVEに所属するウェブデザイナーやメンタルトレーナー、東京からの特別



■萩LOVE
HP:<http://hagi-love.com/>

世界に挑む 80歳のジャンパー 堀野正さん



河内長野市の「広報かわちなかの」7月号の表紙を飾る堀野正さん

8月4日から、フランスのリヨンで開催された世界マスターズ陸上競技選手権大会に、旧田万川町出身の80歳の棒高跳び選手、堀野正（大阪府河内長野市在住）さんが出場し、M80（80〜84歳）クラスで銅メダルを獲得しました。

堀野さんは、田万川町立（現萩市）多磨中学校で陸上を始めました。中学では、走り高跳びを専門としていましたが、卒業後、山口県立萩高校へ進学し、棒高跳びに出会いました。高校3年生の時には、県大会で当時の大会新記録となる3m22cmを出し優勝、インターハイにも出場しました。

40年ぶりのことでした。翌年には、全日本大会に出場しました。その後は、腰のけがに見舞われ、競技ができない期間が続きました。しかし、競技ができない期間も審判員として、陸上競技に関わり続け、70歳で再び選手への復帰を果たします。

競技復帰後は、マスターズ陸上の棒高跳びで全日本大会9連覇、アジア大会3連覇と数々の記録を樹立。

現在も、年に7、8回出場する大会に向けて日々トレーニングがされています。

目標は「世界大会で金メダルを取る」こと。これからも、高い目標に向けて、より高く跳び続ける80歳のジャンパー堀野正さんの、全日本大会、アジア大会の連覇や、世界の舞台での活躍が期待されます。

地産米「山田錦」で醸す 「萩の酒」造りが本格始動！

全国で唯一、7年連続で生産・出荷量を増やしている山口の酒。萩市には酒造業者が5社あり、岩国市と並んで県内トップの蔵数を誇ります。原料である酒造好適米（通称・酒米）のうち最上級品種とされる山田錦の需要が高まる中、「地元の酒米で萩の酒を」と蔵元からの熱望を受け、あぶらんど萩農業協同組合や生産農家らが連携して、昨年産地化を強力に推進してきました。今年14組織で30haの栽培と、大幅に増産。酒造会社と農業者の意見交換会も重ね、10月8日、ようやく「山田錦収穫交流会」へこぎつけました。

当日は、あぶらんど萩農業振興協議会の水津俊男会長が「米価下落の苦境をバネに、必要とされる米を作ろうと地元酒造会社の協力のもと実現しました。立派に育った山田錦米をさらに磨き、酒となった暁には収穫の喜びを味わいたい」と力強くあいさつ。農事組合法人・弥富5区の青原央尚代表も「丈が高く栽培が難しい山田錦ですが、昨年に引けを取らない出来」と、今後の生産に自信をみながら話しました。



つなぐ、結びつきの酒になれば」と、関係者は期待を込めています。

ファーマーズマーケット 「ふれあいらんど萩」 オープン！

萩の食と
農を発信

10月2日、JAあぶらんど萩のファーマーズマーケット「ふれあいらんど萩」が、萩市椿の金谷天満宮の向かいにオープンしました。生産者が丁寧に育てた新鮮な野菜、果物、花、農産物加工品などを販売をする場所をつくることで、生産者の所得向上と、担い手不足の解消を目指します。営業は、午前9時から午後6時30分までで、店休日は第1・3水曜日です。

店内には、玄米の状態で購入したお米を、スタッフが好みで精米する「超おいしい萩産米」コーナーを設置。また、新鮮な地域の農産物、できたての惣菜、弁当、パンなどを取り揃えています。

萩へお帰りのときは、生産者が主役の「ふれあいらんど萩」へ行ってみませんか。



■ JAあぶらんど萩 ファーマーズマーケット
「ふれあいらんど萩」
住所：萩市大字椿3395-12
☎0838・21・7770

萩市東部地域定住促進住宅

「つみかぜ」須佐住宅

萩市外からの入居者を募集中！

平成25年7月の集中豪雨災害により甚大な被害を受けた、東部地域（須佐・田万川地域）の地域活力の再生に向けて、定住の促進と子育て世帯を応援するため、新たに市外から転入しようとする子育て世帯向けの低家賃住宅の入居者を募集しています。

【募集内容】

- 募集戸数 4戸
- 構造 木造2階建て
- 延床面積 約84㎡（3LDK）、駐車場あり

■場所 萩市大字須佐（青葉台）、旧奈古高須佐分校跡地

■家賃 入居する子ども数によって、最大3万円の控除あり。基準家賃4万円

■入居時期 平成28年4月1日以降

■入居申込者の資格 次のいずれにも該当すること

- 入居申し込み時に、萩市外に居住している
- 入居時、同居の子に小学生以下の子がいる（母子健康手帳の交付を受けているものを含む）

を受けているものを含む）

- 入居時、東部地域（須佐・田万川地域）に居住できると認められる入居者・親族の所有する住宅がない
- 東部地域に定住し、地域活性化に貢献する意思がある
- 地方税を完納している
- 入居者、同居者が暴力団員でない

■募集期間 平成28年1月29日（当日消印有効）

■募集方法 萩市ホームページから申請書をダウンロードし、必要事項を記入、必要書類を添付し、郵送または持参

■申し込み・問い合わせ 〒759-3411 萩市大字須佐4570 萩市生活再建支援事業部（08387-62213）

「地域おこし協力隊」が活動をスタート

私たちが新しい萩の魅力を見つけます！

萩市でも、少子・高齢化と人口減少が進み、地域の再生が課題となっています。

市では、今年度、都市に住んでいる人たちなど、地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、定住・定着を促す「萩市地域おこし協力隊」を初めて募集しました。

現在、萩市全域・須佐・福栄の3地域で、観光交流事業や農山漁村地域での地域づくりの活動に従事する「地域おこし協力隊」（非常勤特別職）の隊員8名が活動しています。

協力隊員たちは、配属された地域で、新たな視点での地域振興や魅力づくりの取り組みに向けて、活動をスタート。情報発信や地域イベントのサポートなどで活躍しています。

活動はフェイスブックで紹介！
萩市地域おこし協力隊では、萩の魅力を広く発信するため、日々

の活動をフェイスブックで紹介！
萩市地域おこし協力隊では、萩の魅力を広く発信するため、日々

花燃ゆと世界遺産をデザインした

萩のオリジナルフレーム切手・年賀ハガキを販売

◎萩のオリジナルフレーム切手

日本郵便中国支社では、大河ドラマ「花燃ゆ」や「明治日本の産業革命遺産」のうち萩の5つの構成資産を取り上げたオリジナルフレーム切手を販売しています。

窓口での購入は山口県内の各郵便局（簡易郵便局を除く）ですが、萩市観光協会でも通信販売されています。

- 発売部数 3000部
- シート構成 1シート52円×10枚
- 販売価格 980円
- 通信販売 送料込みで1340円、詳細は萩市観光協会（0838-25-1750）

お問い合わせ 日本郵便中国支社（082-224-5991）

▽オリジナルフレーム切手「文と萩物語〜ゆかりの人物〜」

萩市出身の桐木憲一（漫画家）さんが、文やゆかりの人物をイメージしたイラストと文にゃんで構成された切手です。

▽オリジナルフレーム切手「文と萩物語〜ゆかりの人物〜」

萩市出身の桐木憲一（漫画家）さんが、文やゆかりの人物をイメージしたイラストと文にゃんで構成された切手です。

お問い合わせ 日本郵便中国支社（082-224-5991）

▽オリジナルフレーム切手「文と萩物語〜ゆかりの人物〜」

萩市出身の桐木憲一（漫画家）さんが、文やゆかりの人物をイメージしたイラストと文にゃんで構成された切手です。

お問い合わせ 日本郵便中国支社（082-224-5991）



▽オリジナルフレーム切手「世界遺産登録記念 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業萩の産業遺産群」

マキタオモリツグ（写真家・萩市在住）さんの写真と、結鶴（書彩家・萩市出身）さんの題字による切手です。

お問い合わせ 萩市観光課（0838-25-3139）



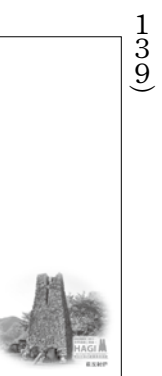
◎萩市オリジナル年賀ハガキ発売
「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録されたことを記念し、萩反射炉をデザインした年賀ハガキを限定販売します。

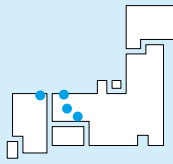
■発売日 11月4日（水）

■枚数 2万枚限定

■価格 1枚52円

■販売所 萩市観光課ほか、詳細は、萩市観光課（0838-25-3139）





山口指月会

10月18日

翠山荘(山口市湯田温泉)



51人が出席。東章会長(昭和32年卒)が「昭和25年の発会以来、開校記念日に毎年開催。伝統ある先輩の実績に恥じないよう発展させたい」とあいさつ。続いて、河村建夫衆議院議員が「萩に追い風が吹いている。また、萩市や萩高の名声を高めるために後押ししたい」、野村興児萩市長が、合併10周年、大河ドラマ「花燃ゆ」や世界遺産登録による萩の賑わいなど、萩の近況を報告されるとともに「奨学金給付などに活用している『ふるさと寄付』で萩への応援を」とあいさつされました。

また、4月に着任された西村佳子萩高校長からは、「全校生徒が450人となったが、一人ひとりが明るく誠実で、郷土への誇りを持ち頼もしく、クラブ活動にも頑張っている」と学校や生徒の様子を紹介されました。

ビンゴ大会で盛り上がり、楽しい時間は瞬く間に過ぎて、来年の再会を約しての散会となりました。

つばき会広島支部総会

9月12日

ワークピア広島(広島市南区)



「今年は萩への関心が高く、萩出身ということがたいへんうれしい。松陰先生の夢を引き継いでいきたい」旨、中原洋美支部長(商業49年)が挨拶。母校末廣栄校長からの近況報告や本部池田誠次会長の祝辞だけでなく、原賢治副支部長の乾杯の発声の後、懇親会では参加者全員が近況や思い出話をスピーチするなど、土佐岡文夫事務局長の名司会ぶりも相まって、終始、和やかで笑顔あふれる会となりました。

最後は全員で校歌を斉唱し、母校の発展を願い、来年の再会を期し散会しました。

萩商工つばき会総会

10月10日

萩商工高校体育館(萩市)



統合して第7回目となる総会で、約500人が参加。今年の引受期代表は、昭和54年商業卒の岡村裕史さん。池田誠次会長は「本年も、159人の新しい会員をつばき会に迎えることができました。嬉しく思う反面、彼らもまた進学に就職にと進み、ここ故郷を後にしています。今年も県内外へ多くの生徒が一道を求め、挑戦することに大いに期待しますが、一抹の寂しさを感じます」とあいさつ。末廣栄校長は「教職員と生徒が一丸となり、毎年就職内定率100%を達成。部活動でも全国大会出場など生徒が活躍指導者や生徒の努力とともに、良き伝統として受け継がれてきた取り組み姿勢などが土台になっている。これからも、新たな歴史と伝統の創造に今後も取り組んでいきたい」と近況を報告しました。

懇親会では、萩吹奏楽団サマーオレンジズの演奏や恒例の福引抽選会などもあり、旧友と楽しく語り合いました。

九州指月会

9月12日

博多都ホテル(福岡市博多区)



24回目、46人が出席。会長の廣瀬勝彦さん(昭和39年卒)から、「今回は、世界遺産登録、大河ドラマ『花燃ゆ』をテーマに開催し、記憶に残る会にしたい」とあいさつ。村田昌志指月会会長からは「萩高は世界遺産のど真ん中にあり誇らしい」、西村佳子萩高校長からも「萩高の敷地内に多くの観光客が敷地内に入って来られ、特に外国人が増えた」と世界遺産登録効果を紹介されました。

今回のテーマに沿って、山本章三萩博物館長が「花燃ゆ 文さんのこれから」と題し、また、野村興児萩市長が会の締めくくりとして「世界遺産登録までの軌跡」と題して講演され、萩の旬の話題に参加者は興味深く熱心に耳を傾けていました。

■須郷昌徳さん（福岡市）

萩市をはじめとした国内8エリアの世界産業遺産登録は、指定を受けた各地はもちろん日本中で大きな反響を呼んだ。福岡で開催された九州指月会（萩高校同窓会）総会では野村興児萩市長の世界遺産講演が行われ、NHKを始め地元テレビ局や新聞各紙などマスコミ各社が取材に訪れた。活気に満ちた会の様子は夕方のニュースでも報道された。

萩市5カ所の登録は他地域の登録とは趣を異にしている。他が産業施設など具現化されたものを中心であるのに対して、松下村塾や萩の街並みなどが登録されたことは、ある意味萩市・長州毛利藩がま

■北野紀之（大阪市淀川区）

「明倫小学校の思い出」

私は、現在大阪で会計事務所を開業しています。今年75歳になります。

この度、墓参で帰萩した時のことでした。「今日で明倫小学校の見学会は終わりです」と聞かされたのです。私にとっ

ては身が引き裂かれる思いがしました。今、萩はNHK大河ドラマ「花燃ゆ」で燃えています。帰萩時には一番に体育館の舞台装置を見に行きました。昔の講堂には、毛利元就が3人の子供たちに渡している三本の矢の絵画が掲げてありました。今でも、「教え」として心に残っています。

明倫小学校は、私にとっては心の支えであり、「萩」そのものなのです。萩に帰った時には、時間の許す限り、東門から正門、西門そして母校の萩商工高校の正門

るごと登録されたものといつてよい。

その核心はアジアの先駆けとして、産業化に踏み出した日本の魂がふるさと萩を出発点としているということである。日本の重工業の発祥の地として萩が認定されたのだ。吉田松陰の教えのもと、維

新の志士だけでなく多くの工業人を輩出した松下村塾。ヨーロッパに追いつくべく、造船・大砲の製造などに乗り出した進取の気概に燃えた幕末の長州藩。この存在が、明治日本の近代化の礎であった。

政治の国として有名な長州からは、伊藤博文初代総理から現在の安倍晋三首相まで、多くの政治家が誕生してきた。だが今回、登録を共に受けた三菱長崎造船

を回るのでした。

もう今から68年前になります。昭和22年、私は明倫小学校に入学しました。私の教室は、正門の本校舎の一番西側、確か音楽教室と云っていました。バツハ、ペーターペン、シューベルトなどの写真が飾ってありました。いまでも鮮明に覚えています。1クラス60人はいたと思います。担任は、三浦久先生でした。鼻髭をつけた、メリハリのある厳しい先生でした。廊下の拭き方一つとっても、「海軍では便器に手を当てる臭いを確認していたのだ」と言われたことが今だに忘れられません。教室も廊下もピカピカになるまで拭いたものです。

運動場の真ん中にあつた一本の松の木は、今ではもう無くなっていました。運動会では3000人の児童たちで大賑いでした。当日は、朝早くから場所取りで

所初代所長渡辺高蔵をはじめ、多くの工業人もわが長州は生み出している。さらに同じく登録された八幡製鉄所を開設したのは、初代工部卿伊藤博文、2代目工部卿井上馨の尽力の賜物であった。

「日本の明日を創る」という松陰の教えを源流とした長州の思想は、過去から送られ未来を孕む現在の萩市にも脈々と生きている。10余年の努力の上に築かれた世界産業遺産登録もまたその証である。

これを機にわがふるさと萩が日本の創生を牽引するという気概をもって、先人たちの挑戦者精神を胸に、さらに邁進していこう。

大変でした。親と一緒に食べた昼食、初物の栗やみかん。本当に懐かしい思い出です。

昭和20年は終戦から余り時間も経っていませんが、当時、外地から引き揚げて来た友達には本当に可哀想で、今でも辛い思い出として残っています。昭和28年、卒業の時は、第4校舎の3部6年1組でした。本当に楽しいクラスでした。では皆さん、またいつかお会いできることを楽しみにしています。どうぞお元気で！



明倫小見学会(8月11日) 萩市撮影

ふるさと萩への応援を！「萩ふるさと寄付」

萩市では、ふるさとを離れた出身者や、萩を応援したいという方々の想いや願いを、ふるさと納税制度により寄付金という形で市政に反映する「萩ふるさと寄付」を創設しており、多くの方に応援していただいています。

皆さんからの寄付金を、「ふるさと萩」を誇りとし、志を抱いた子どもたちの育成のために、全国でも類を見ない高校・大学奨学金事業や、新たな観光起点として整備を進めている旧明倫小学校校舎の保存整備事業等、萩市のまちづくりにおける重点事業として指定した7つの事業に充て、有効に活用させていただきます。

萩市外に在住の方が、1万円以上寄付された場合、感謝の気持ちとしてふるさとの特産品（約100点、品切れ中のものもあります）を1点お贈りしています。

また、今年度から、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」(<http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/35204>)でも募集しており、より便利になっています。

これからも「萩にあるもの、萩にしかないもの」を活用した萩の創生に取り組んでいくため、皆さんの応援をお願いします。

■問い合わせ

萩市企画政策課

(08338・253102)

情報アラカルト

北海道地区

■NHK大河ドラマ「花燃ゆ」ゆかりの古写真展「激動の幕末・明治と長州の人々（仮称）」

大河ドラマ「花燃ゆ」にちなんだ「杉家の人々」、松下村塾の塾生たち、毛利家の面々など幕末から明治の激動期を彩った人物等の写真を展示。また、道迫真吾萩博物館主任学芸員の解説も掲示。
平成28年1月8日（金）～28日（木）（予定）
北海道上川郡東川町東町1・19・8 北海道東川町文化ギャラリー（0166・82・4700）

関東地区

■つばき会関東支部総会

関東地区の萩商工高同窓会。
11月14日（土）午後2時～5時
東京都品川区大崎（大崎駅東口）ニューオータニイン東京（03・3373・4020）野村

■東京須佐弥富会

関東地区の須佐地域同郷会。
11月14日（土）正午～午後3時
東京都港区高輪（品川駅高輪口）日立金属 高輪和彊館（090・2208・5873）勝山

■第23回日本陶芸展 茨城展

岡田泰、岡田裕、玉村信一、止

原理美、渋谷真一の作品が展示。
12月6日（日）まで
茨城県笠間市笠間2345 茨城県陶芸美術館（0296・700・0011）

■元陽展

萩市紫福出身で広島市在住の西村不可止の作品が展示されます。
11月6日（金）まで（11月2日は休館）
東京都台東区上野公園8・36 東京都美術館（上野公園内）（03・3823・6921）

■東京やまぐちフェスタ2015 三茶でやまぐち食べちやる祭り

おいでませ！山口観光物産展 萩の地ビール、地酒、夏みかん菓子などが販売されます。
11月7日（土）～8日（日）午前11時～午後6時（8日は5時まで）
東京都世田谷区太子堂2・17 三軒茶屋ふれあい広場（間） 山口県東京営業本部（03・3502・3355）

■岡田泰 作陶展

11月22日（日）～29日（日）
東京都新宿区新宿3・37・11 安与ビル地下2階柿傳ギャラリー（03・3352・5118）

■NHK大河ドラマ「花燃ゆ」ゆかりの古写真展「激動の幕末・明治と長州の人々（仮称）」

止

12月9日（水）～14日（月）（予定）
東京都豊島区西池袋1・8・1 東京芸術劇場（展示ギャラリー1）（03・53391・2111）

■酒器展

三輪和彦の作品が展示されます。
12月23日（水・祝）～29日（火）
東京都中央区日本橋室町1・4・1 日本橋三越本店美術特選画廊（03・3241・3311）

■2016 一軸一碗展

兼田昌尚、三輪和彦の作品が展示されます。
12月30日（水）～平成28年1月12日（火）
東京都中央区日本橋室町1・4・1 日本橋三越本店美術特選画廊（03・3241・3311）

■The Salon Art + Design

11月12日（木）～16日（月）
Park Avenue Armory
△兼田昌尚 Landscapes in Clay - Joan B. Mirviss Gallery

■大酒器展2016年

三輪和彦の作品が展示されます。
平成28年1月15日（金）～26日（火）
東京都渋谷区渋谷1・16・14 しずや黒田陶苑（03・3499・3225）

■萩焼波多野英生 作陶展
11月4日（水）～10日（火）
愛知県名古屋市中区栄3・5・1 名古屋三越栄店（052・252・1111）

■元陽展 大阪巡回展

西村不可止の作品を展示。
平成28年1月13日（水）～17日（日）
大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1・82 大阪市立美術館（天王寺公園内）（06・6771・4874）

■元陽展 広島会場

西村不可止の作品を展示。
12月1日（火）～6日（日）
広島県広島市中区上幟町2・22 広島県立美術館（082・221・6246）

■つばき会下関支部・九州支部 巴城会

下関・九州地区の萩商工と下関地区の萩高の合同同窓会。
11月7日（土）午後6時～
下関市彦島西山町 南風泊市場 活魚センター（090・4652・5028）原

■生命のLINE

田村覚志（TAZU）の線描画 作品などが展示されます。
11月13日（金）～22日（日）午前10時

■大河ドラマ「花燃ゆ」巡回展
■水戸展
11月1日（日）～6日（金）
笠間稲荷神社嘉辰殿
■高松展
11月11日（水）～15日（日）
NHK高松放送局ハートプラザ
■北九州展
11月21日（土）～29日（日）
関門海峡ミュージアム
■福岡展
12月1日（火）～6日（日）
NHK福岡放送局ハートプラザ

■下瀬信雄写真展「天地結界」

萩市在住の写真家下瀬信雄の第34回土門拳賞受賞を記念して開催。
11月21日（土）～29日（日）午前10時～午後5時（入場は4時30分まで）
ギャラリートーク
11月21日（土）午前11時～午後2時（申込不要）
岩国市三笠町1・1・1 シンフォニア岩国（0827・29・1600）

■鏡かがみ鑑

金子司、野坂和左、中島大輔、濱中史朗による展覧会です。

■萩市関係

金子司、野坂和左、中島大輔、濱中史朗による展覧会です。

金子司、野坂和左、中島大輔、濱中史朗による展覧会です。

金子司、野坂和左、中島大輔、濱中史朗による展覧会です。

11月3日(火・祝)まで、午前9時30分～午後6時(最終日は5時まで)

萩市呉服町1・3 彩陶庵

(0838・25・3110)

■青の様

陶芸家の若狭祐介(広島県)の作品が展示されます。

11月21日(土)～12月6日(日) 午前11時～午後7時

萩市東田町144番地 TAZZ (0838・26・6020)

テレビ情報

■幕末サムライ番長 高杉晋作のブッチギリ人生(面白き)こともなき世に面白く

新規(再)加入会員

- 久重まどかさん (兵庫県神戸市)
- 安本タカ子さん (埼玉県和光市)
- 埴秀樹さん (広島県広島市)
- 稲原宏昭さん (広島県広島市)
- 飯田京子さん (東京都調布市)
- 中原重政さん (山口市)
- 末益龍夫さん (静岡県三島市)
- 阿武三雄さん (東京都新宿区)
- 阿武隆弘さん (東京都新宿区)
- 田中薫さん (東京都世田谷区)
- 浦上善治さん (千葉県千葉市)
- 堀田達顕さん (神奈川県横浜市)
- 松永敦夫さん (静岡県御殿場市)
- 関屋義和さん (東京都杉並区)
- 中座克之さん (埼玉県さいたま市)

俳優的場浩司さんが、高杉晋作ゆかりの地を巡り、晋作の虚像、実像を一坂太郎(萩博物館特別学芸員)が解説します。

11月7日(土)午後2時～2時55分 中四国テレビ朝日系列(後日、テレビ朝日系列で全国放送予定)

出版情報

■隔週刊「名城をゆく」第14巻「萩城・岩国城」
萩城を詳しく紹介。とじ込み付録は萩城の復元鳥瞰図。
価格 600円(税別)
出版社 小学館

■花燃ゆ 完結編
クライマックスへと向かうドラマを徹底ガイド。
価格 1050円(税別)
出版社 NHK出版

■花燃ゆ(四) 作 小松江里子
ノベライズ 五十嵐佳子
価格 1400円(税別)
出版社 NHK出版

■明治日本の産業革命遺産 世界遺産登録された明治日本の産業革命遺産について紹介。
価格 830円(税別)
出版社 ワニブックス

■萩ふるさと大使の桐木憲一さんが新連載
代表作「東京シャッターガール」の金沢版が、本当にあった愉快な話(竹書房)の12月号から連載。

平成28年 2/7実施 第3回 萩・幕末維新検定

幕末・明治維新に関し、萩ゆかりの人物や歴史等を学ぶ「萩・幕末維新検定」。今回から、より多くの方が気軽にチャレンジできるように、全問択一式の初級・入門コースも実施します。

▽検定日 平成28年2月7日(日) 午前10時～
▽検定場所 萩市民館ほか
◎申し込み ▽申込締切 平成28年1月15日
「萩・幕末維新検定ホームページ」から申し込みできます。
※割引制度や受検者特典があります。詳しくは「萩・幕末維新検定ホームページ」をご覧ください。
◆検定問題集(公式テキスト) ▽A5版、179ページ、
▽定価 1,500円(萩博物館で注文、配送可(0838・25・3177、メール npomachihaku02@royal.ocn.ne.jp))

コース	初級・入門	中級・門下生	上級・師範
受検資格	幕末・維新を学びたい方ならどなたでも(初めての方でも中級から受検可)		第1回検定、第2回検定中級・門下生コース合格者
検定時間	60分	90分	
出題数	100問(択一式100問)	100問(択一式50問・記述式50問)	100問(択一式30問・記述式70問)
合格基準	80問以上の正解で合格		
検定料(税込)	2,500円	3,000円	3,500円

■申し込み・問い合わせ 萩・幕末維新検定事務局(萩市まじゅう博物館推進課、0838・25・3290)

47 薩長同盟

つぐのぶ 三宅紹宣(広島大学名誉教授)

620円

薩長同盟は、幕末史の画期をなす重要なできごとで、木戸孝允、西郷隆盛、坂本龍馬など関係した多くの人々のねばり強い努力によって達成されました。坂本龍馬宛ての木戸孝允書簡を丹念に読み解くことを中心に、その真相に迫ります。2016年は薩長同盟締結150年。



申し込み 一般社団法人 萩ものがたり事務局 ☎0838・25・3233

ブックレットシリーズ

萩ものがたり



48 兼常 清佐

きよすけ 萩が生んだ音楽界の奇才

三好健二(萩まじゅう博物館推進委員会土原部会長)

510円

兼常清佐は大正時代初頭から戦前にかけて活躍した、近代日本音楽創世期の巨人ともいえる異色の音楽研究家でした。萩の自然を終世想い愛した兼常の見た萩の原風景を、篤子夫人に送った絵葉書で見ます。2015年は兼常清佐生誕130年。

イベントカレンダー

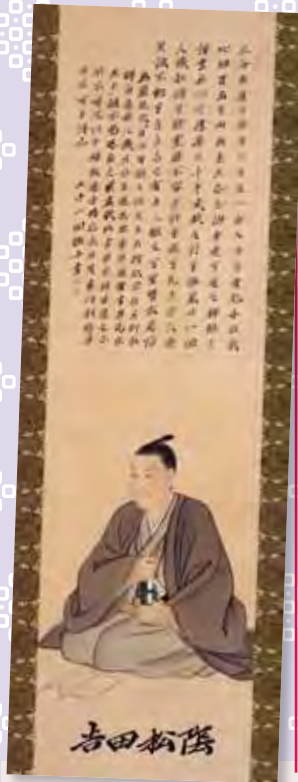
萩市観光協会 ☎0838・25・1750

- 11月14日(土)、15日(日)10:00~16:00
◇萩ふるさとまつり 中央公園ほか
- 11月15日(日)8:00~ 中央公園
市内各所
◇萩時代まつり
大河ドラマ「花燃ゆ」で、楳根(杉)寿役の優香さんの時代パレードへの参加、トークショーが予定されています。
- 12月6日(日)10:00~ 市内各所
◇萩城下町マラソン
- 12月12日(土)~1月5日(火)17:30~23:00
◇萩イルミネフェスタ JR萩駅前
- 12月27日(日)~31日(木)9:00~18:00
◇萩・年末お魚市 道の駅「萩シーマート」
- 平成28年1月2日(土)13:30~
◇萩市成人式 萩市民館大ホール

阿武川歴史民俗資料館 特別展 「長門峡と高島北海」

阿武川ダム完成40周年を記念し、高島北海が描いた掛け軸の展示、長門峡に関連したジオパークパネルの展示などが行われます。

- とき 11月5日(木)~30日(月) 午前9時~午後4時(休館日 火曜日)
- ところ 阿武川歴史民俗資料館(萩市川上2319)
- 入館料 100円
- ☎0838・54・2024



吉田松陰カレンダー2016

松陰先生が残した詩文と解説を月ごとに掲載。

「親思ふ こゝろにまさる親こゝろ けふの音づれ 何ときくらん」(1月)

59×21cm 13枚綴り カラー刷

□定価 500円(萩限定販売)

■販売・問い合わせ

マシヤマ印刷

☎0838・22・1103



2015 着物フォトコンテスト

グランプリ「反射炉来たよ！」

中島正文(益田市)

★吉田松陰カレンダーを2名様にプレゼント

▷応募方法 ハガキに品名、住所、氏名、電話番号、近況等を明記のうえ、萩ネットワーク協会プレゼント係まで。11月24日(消印有効)

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

青磁のいま ~受け継がれた技と美 南宋から現代まで~



11月29日(日)まで
中国・南宋官窯の名品をはじめ、近代陶芸史に名を残す巨匠たちの優品、さらには現代の人間国宝ほか気鋭作家の最新作で、青磁石の造形美を紹介します。

■観覧料 一般1,000円、70歳以上の方・学生800円、18歳以下無料

■休館日 11月2日(月)、16日(月)

シリーズ山東文物9 中華の服飾芸術

漢族の伝統的服制を継承した明代の大方かで洒落な衣装や、気高く厳格な美質が求められた清代における満族衣装由来の服装を中心に、衣服の造形や染織、装飾品などを通して、中国における装いの美意識を探ります。

12月12日(土)~
平成28年1月17日(日)

萩博物館だより

☎0838・25・6447

明治日本の産業革命遺産と萩



11月29日(日)まで
この企画展では、「明治日本の産業革命遺産」における萩の5資産の位置づけを紹介し、幕末の萩(長州)藩が取り組んだ工業化の試行錯誤の段階から明治政府による工業化の実現へと至る一連の軌跡を明らかにします。

■観覧料 大人510円、高校・大学生310円、小・中学生100円

●城下町・萩のひみつ ~迷宮へのいざない 12月12日(土)~平成28年4月7日(木)

城下町の歴史文化や自然が今に息づく理由を分かりやすく紹介し、新発見や再発見にあふれる萩の「まちじゅう博物館」へといざないます。